

(1)ふりかえりシートからみる参加者の変容

1. ふりかえりカードについて

●月●●日

「限界突破キャンプ」 ふりかえりカード

名前

◆今日の1日の活動をふりかえってみましょう。あてはまる数字に○を書いてください。
 <5-よくできた 4-まあまあできた 3-どちらとも思えない 2-あまりできなかった 1-できなかった>

挑戦	① 自ら進んで、話したり、自分の意見を言ったりすることができたか。	5・4・3・2・1
	② あきらめずに最後までやり抜くことができたか。	5・4・3・2・1
団結	③ 友達の手助けになって話を聞いたり、行動したりすることができたか。	5・4・3・2・1
	④ 友達のおいところを見つけたり、感じたりすることができたか。	5・4・3・2・1
思いやり	⑤ 友達への思いやりの気持ちをもって行動することができたか。	5・4・3・2・1
	⑥ 友達を大切に思うことができたか。	5・4・3・2・1

<感想>特に思い出になったことがあれば、書こう。

<朝日のぬあて>

事業の評価・参加者の変容を見取るために、毎日「ふりかえり」の時間を設けた。左記のふりかえりシートを活用し、6つの質問項目で自己評価を行わせた。

※1～5段階の自己評価で、最大値は5

7日目のふりかえりは、「最後のふりかえり」として、【挑戦】【団結】【思いやり】の3項目ごとに自由記述としたため、数値での自己評価は行わなかった。

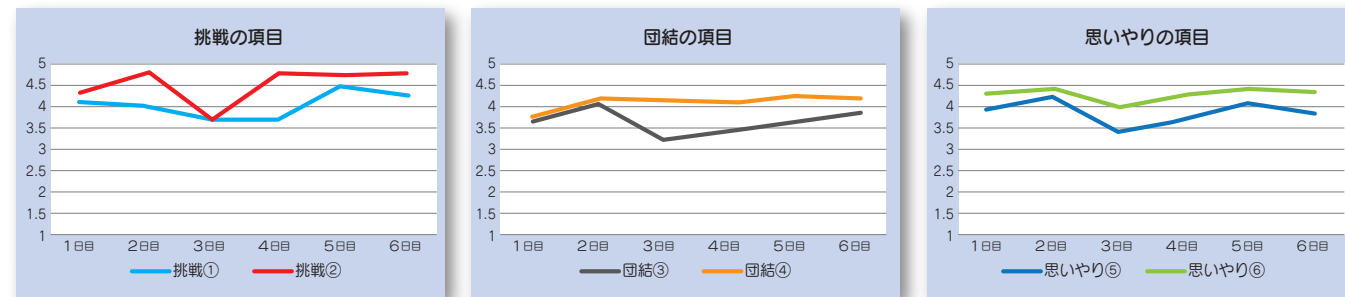
8日目は、交流の家「事後アンケート」を行ったため、数値での自己評価は行わなかった。

【挑戦】のために実施した主なプログラム
 ・榛名富士登山、赤城山縦走①～③、野外炊事

【団結】のために実施した主なプログラム
 ・仲間づくりレクリエーション、チーム旗づくり

【思いやり】のために実施したプログラム
 ・テント設営、お別れ会

2. 参加者全体の変容



考察

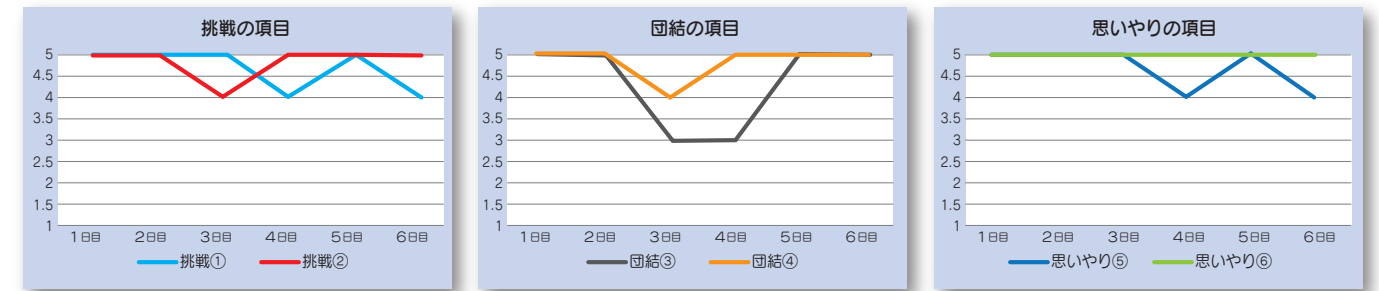
- ・ふりかえりシートの結果から「挑戦②」の項目で高い自己評価を得ていることがわかる。特に、4日目の赤城山縦走①（約13km）の行程を踏破した日の自己評価は、全員が高い数値を付けていた。
- ・登山を重視した本事業では、「あきらめずに最後までやり抜く力」が身に付いたと感じる参加者が多かった。
- ・「団結」「思いやり」の項目では、「挑戦」に比べ数値の伸びが少なかった。参加者の様子から、登山での体力的な理由と初めての経験の連続で他者へ関心を向けることが難しかったからだと考える。

3. 参加児童の変容

対象児童 所見

対象児童は、キャンプに対する意欲は高いが、運動に苦手意識をもっているようであった。妙義山登山（事前キャンプ）や榛名富士登山（2日目）では、遅れてしまう場面も見られた。また、グループの話し合いで自分の意見を言うのが苦手なようであった。対象児童が最も不安に感じているプログラムは、4日目の約13kmの行程を踏破する赤城山縦走であったが、自身の力で踏破し、グループから称賛されたことで自信をつけたようであった。その後、グループの話し合いにも積極的に参加するようになり、ふりかえりでは、「あきらめないこと、弱くならないことをこれからの生活に生かしたい。」という記述があった。

ア 自己評価



イ 自由記述

- 1日目：カレーが上手にできた。
 2日目：登山がつかれた。お弁当がおいしかった。
 3日目：ピザづくりで協力ができた。明日の登山をがんばりたい。
 4日目：登山で遅れてしまったとき、みんなと合流したら「おつかれさま」と言ってくれてうれしかった。
 5日目：山頂から「がんばれー」という声が聞こえてきてうれしかった。
 6日目：無事に交流の家に帰ってこれた。お別れ会の準備をがんばりたい。
 7日目：あきらめないこと、弱くならないことをこれからの生活に生かしたい。
 8日目（事後アンケート）：みんなと協力することができた。どんなことにも簡単にあきらめない。

1か月後（保護者アンケート）

- ・夏休み期間は、早寝早起きしていた。
- ・家事の手伝いをすることが増えた。
- ・虫が大の苦手だったが、小さな虫は気にしなくなった。
- ・返事がハキハキするようになった。
- ・今まで食べなかった食材に興味をもちチャレンジしたり食べたりするようになった。

考察

- ・おおむね全ての項目が高い数値で推移していることから、キャンプに意欲的に参加することができていたことがうかがえる。
- ・3日目に、「挑戦②」「団結③④」の項目で自己評価の落ち込みが見られた。これは、2日目の登山で体力的な不安があったことや4日目以降の赤城山縦走への不安が要因と考えられる。
- ・赤城山縦走①（約13km）の行程を踏破した4日目以降は、「挑戦②」「団結④」の数値の向上が見られた。自身の力で登り切り、グループから称賛されたことが自信になったと考えられる。
- ・他者とかかわりのある項目が全体的に低い数値になっている。これは、自身のペースで登山を行い、グループ間での交流が減少したことが考えられる。
- ・本キャンプ序盤では、自身に焦点を当てた記述が多く見られたが、グループ間のかかわりが増加し、登山で他者に認められたことから、他者にかかわるような肯定的な記述がみられるようになったと推察する。
- ・保護者アンケートの記述から、挑戦意欲が継続していることがうかがえる。